

流れる水のはたらき

流れる水のはたらき

川を流れる水には、三つのはたらきがあります。

一つ目は、地面や岩をけずるはたらきで、これを侵食しんしょくといいます。二つ目は、けずった土や石を運ぶはたらきで、これを運搬うんぱんといいます。三つ目は、運んできた土や石を積もらせるはたらきで、これを堆積たいせきといいます。これら三つのはたらきは、水の量がふえて流れが速くなると、大きくなります。大雨のときに川がにごるのは、たくさんの土が運ばれているからです。

川の上流は、山の中にあり、かたむきが急なので、水の流れが速くなります。そのため、侵食や運搬うんぱんのはたらきが大きく、深い谷ができます。上流の石は、大きくて角ばっています。

下流になると、土地のかたむきがゆるやかになり、流れもおそくなります。そのため、堆積たいせきのはたらきが大きくなり、川原には小さな石やすなが積もります。石は、運ばれてくる間に、川底や、ほかの石とぶつかり合って角がとれるので、下流の石は、小さくて丸い形をしています。

また、川の曲がっているところでは、外側の流れが速く、川岸がけずられやすくなっています。

1 流れる水が、地面や岩をけずるはたらきを何といいますか。



2 川の上流の石の样子に合うものはどれですか。

ア 大きくて角ばっている。

イ 小さくて丸い。

ウ すなばかりである。

3 下流で、堆積たいせきのはたらきが大きくなるのはどうしてですか。

ア 流れがおそくなるから。

イ 水がつめたいから。

ウ 石が大きいから。

4 下流の石が丸いのは、どうしてですか。

ア 運ばれる間に、ぶつかり合って角がとれるから。

イ はじめから丸い石だから。

ウ 人がけずったから。